



木刈中タイムズ

No. 13

心身ともにたくましく 自ら学び 共に生きる生徒
—笑顔・感動、はつらつ木刈—

全国学力・学習状況調査について

3年生を対象とし、4月17日（木）に全国学力・学習状況調査を実施いたしました。

この調査の目的は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。そして、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。

本校に関する調査結果から見られる特徴とその分析を行い、生徒の力をより伸ばしていけるように改善し、これからの指導に活かしてまいります。

<国 語>

授業の中で、言葉の特徴や使い方についての指導を適宜入れていたため、それが成果として現れました。自分の考えを文章で表現する場面を多く設定していましたが、文の構成を作れない生徒が多くみられます。特に「集めた資料を整理し明確に伝える」「表現方法を工夫する」「根拠を明確にして考える」「読み手の立場になって、文章を整える」など必要なものを取捨選択し、ポイントを捉えて論理だって表現することに課題がみられます。書き方の基本の形を押さえ、内容を的確に伝えるために、論理的な文を構成する力の育成を、年間を通して繰り返し指導を行っていきます。

<数 学>

授業の中で教え合い活動を積極的に取り入れ、学習者主体の場面や自己決定の場を作る授業展開を行ってきた結果、すべての分野でその成果が見られました。しかし、「素数」や「多角形の外角」など基本的事項を理解しているかをみる問いに対して、正確に理解できていないための誤回答がみられました。また、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いての説明を苦手とする生徒も見受けられます。基本的な内容を正確に身につけさせながら、事象を数学的に捉え、適切に表現できるように、さらに授業改善を図っていきます。

<理 科>

授業の中で、観察や実験の時間を十分に確保した上で結果について考察することで、いずれの分野においても高い正答率が見られた。一方で、身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題設定やこれまで学習した内容を活用して実験を計画し、予想される結果を説明したり、与えられた資料をもとに空間的に捉え表現したりする力に課題が見られます。既習事項をもとに、課題を見つけ、それを解決するための方法を考えたり、予想される結果を論理的に表現したりする力を考えた授業作りに努めてまいります。

<生徒質問調査>

「学習習慣」に関する項目が平均値を大きく上回っています。これは本校の地域的特色として、家庭の学習への意識が高く、学習塾等へ通っている生徒も多いことが関係していると考えられます。経年変化を見てもこの項目は毎年高い値を示しています。また、昨年度課題であった「生活習慣」に若干の改善が見られますが、就寝・起床時間等の課題は残っています。「ICTを活用した学習」については、意識が高まっていると捉えてよい状況です。

反面、「主体的な学習の調整」「自己有用感」が低下していることから、目的意識や将来のビジョンがなく、ただ“やらされている”状態の生徒が増えているのではないかと考えられます。教科に対する意識も低下傾向が見られます。キャリア教育等を含めて自ら学び、自らの道を切り開こうとする態度を育み、目的意識をもって物事に取り組んでいく姿勢の育成に努めてまいります。